

バストス週報

第百四十六号
昭和卅一年
十月廿五日
発行

DIRETOR
KOITI MORI
REDATOR
SHION ODA

PRE. P
RUA. PRES
VARGAS, 188
C. P. 112
BASTOS
C. P.

一ヶ月
100\$-

日本語の表現は カタカナが理想的

コロニアの日本語教
育はこれではない

去る十一月十一日のこと、日本カナ文字会の理事村山祐太郎といふ人（ヒアノ会社の社長、欧米視察の途上、聖市を訪問した）とラジオオクルツイラの若原アナウンサーのインタビュがきこえた。村山氏の説によると「日本にはカナの外に何十という漢字があつて、これを覚えるために、どれ位損をしてでも、かかわらないで、もしあつたならば、漢字を用いないで、用が足るならば、どんなに助かるか。その余力を他のあらゆる学科の研究に向けたら、日本の科学はどの位進歩するか。蓋し止まる処を知らないのである」との事であつた。

漢字でかかれば通じない言葉は一つもなく、もし通じないよう言葉は死語で無益だ。言葉の前後の關係で術語、熟語、専門語でもカナがきこえよく判る。西洋諸国のアルファベットは二十三字の二十六字でこれを綴り合せることによつて、どんなに六ヶ敷い言葉でも表現できるとはかりでなく、文字をおぼえる手間が完全に省畧される。日本の教育では小学校の二年生迄の間にはラガナとカタカナをおぼえさせ、その間に少くも漢字を入れて義務教育をうける道には少くも千八百字位おぼえなければならぬことになつてゐる。今や新聞雑誌でも当用漢字を千二百字に制限し、それでは、二ツテに立つてゐるのであるが、更に之をテツテイ的に少くしたら、日本の児童は文字をおぼえる時間、倍の言葉をおぼえることができる。このことを海外に移住してゐる日系人の日本語教育にあてはめて見ても充分共感をおぼふことと思われ、その在任同胞がこの問題を真剣に考えることをのぞむといつてゐる。今はよむ時代であつて書く時代ではない。頭にある事柄を言葉にあらわして、自分の意志を相手に伝へることができ、それが、ある言葉を書き表わすには活字があり、カナ書きタイプライターがある。改米の商社などは殆ど手で書くという式は用いられて居らぬ。

ALFAIATARIA IMPERIAL

バイレ-には
マルヤマの
フク



丸山
洋服店

Relojoaria
Confianca

ナタレ フレゼンテノ
オミタテ ケツシテ
ハマイコトハ、ゴカイマセン

時計 指輪 首飾 耳輪

ソノホカ イロイロ
ゴザイマス
アナタノ アイジンノ
タメニセヒ



ツツパン ニ オイデノセツ
ハチヨット オクチヨリ、クダサイ
ツツパン ポントマエ

中村時計店

何も苦しんで二十字近い漢字などおぼえずとも四十八字のカナ書きで楽々と日本語が勉強できると思はれ、コロニヤの苦悶たる日本語教育は簡単に解決できるではないか。又カナは平仮名よりカタカナがよい、曲字形（ひらがな）より、直線形の方が、人と実用的で見やすく、おぼえやすい。書き方は無論横書きである。タイプライターに之れを仕組むことになるが、綴りからトより二十数字多くはなるが、綴りから云うと、かえつて字が少くなるのである。NAの例で判るとおり、ローマ字で二字の処をカナでは一字で、しかももつとかん

たんに表現できるものである。もし漢語の筆記でもするとカナタイプを便へは、なれたものなら一分間六百以上印字できるから、速記術によらなくとも、悠々とカナ文字で記録することができるといふ。さあ、こうなると漢字など覚えることば、バカ気ていることにきがつくであらう。漢字の本場の支那ですら、今やこの大きなきつに気がつき支那式アルベツトを考案して全国に普及せんとして力を入れている。文字(漢字)を覚えれば文学的ではあるが、科学の面でおくれをとるといふ意味のことを淳々と説いていたようであつた。

以上村山氏のカナ文字論には賛否両論種々な意見もとびだすであらうが、アルベツト諸国が、その文化の高さに於て日本の上位にあるとすれば、理論の上では問題なくカナアルベツト式論にカブトをぬかざるを得ないであらう。たゞ十年以上の長い歴史に培われた漢字使用の習慣が、よかれあしかれ日本国民を指導して現在に及んでいるとすれば、ヨイトワカツテイモ、それなり明日から実行するとは云えないであらう。此の問題は一日おくれれば百日の損といふ實際主義の見地からは施行に急を要するであらうが、習慣は一朝一夕で改善できるものではない。又除々に改めるといつた処で各人の申合せ位では問題にならぬ。第一に日本本国の学校教育で大英断をふるい、漢字の使用禁止法策を徹底し、最罰主義を掲げ、その実施を徹底する方策を講じぬ限り、民間の運動でカナがキに致しなすよう位の微熱では到底その成果に期待できるものではない。しかし在日日系への日本語教育に於てカナが取りすまそうと思へば、父兄がそれを知りて承知させれば、わけはなさそうに思はれる。事実カナさえも教えず、ほととらがしの家庭がコロコロ、いかに多いことか。日本語はムツかしいというのはいちがいで、実は漢字がムツかしいのである。カタカナ、ヒラガナだけなら、低脳でない限り二ヶ月以内におぼえられる。私個人の報告で相すまぬが、漢字を習ふ又は少年に教ふことは中々大々敷しく、よめる様にはなるが、書くのは容易かない。書けるようになったところで、その使用価値は身に稀少で話にならぬ。使うことが少いから従って忘れることも早く、コロニアでは、日本雑誌(キングス平紙報)が邦字新聞位よめるようになれば上等といわねばなるまい。邦字新聞でもパウリスタ、日伯、サハロ、あたりでルビをふれば、読者を将来確保できるのではないかと思ふ。カナだけ知って居ればルビをたよりに入っていけるからである。

Sapataria HAYAKAWA

早川靴店



バレーヲケイコナラ
ハヤカワノ
アツデ

婦人靴
紳士靴
子供靴

私は日本語を勉強する者少年に「トクシヨリヨク」をつけることに重点をおき、読めるだけの字を書けなとムリをいわないことにしている。熟語の解釈をわけて、文章の内容を明かにし、本や雑誌をよむことに興味を持たせるようにしてやる。カナを従横に駆使して言葉を教える方法、漢字にはルビをふって何回もよませる。書けなくともよいことにしている。これは私だけのやり方だが、それでよいと思つていゝ。特別志ある者は何程でも勉強次第、吾々の程度にはなれるからである。

只吾々漢字をわり合よけい知つて居る者にとつては、従来の漢字まじりの文章がよみよく、カナがキにされるのは、かなわぬ。しかし一國一民族の興亡盛衰に、なかりをもつとすれば、次代の同胞の爲めに、漢字を捨てる位の覚悟は、しなけれはなるまい。

試みに、少々固苦しい日本語を、カナがキにして見よう

コンニチノ ニツホンゴキヨウイク
ナルモノノ ジツタイハ、ブラジルニオ
ケル ニツホンジンコロニアノ イウバ
レルシノ クモンデ アロウト オモ
ワレルノテアル。
ワレワレ、イツセイノ アイダニスラ、
カンジノ キラクハ、スクナカラズ、シ
ヨウモウシ、イツホン、テガミヲカ
クノニ、イクタビカ、ジシヨ、ヲセツ
コノヨウニ、ヤクニタナイ、カンジ
トハ、タンニ、ニツホンゴノ、キヨウシ
ウト、イツタヨウナ、カンジヨウ、ウ
エカラ、コシユウニスギナイト、オモワ
ザルヲ、エナイノデアル。
カナガキテワ、ジヨウガ、ウツラナイト
カ、サバクノヨウナ、カンジガストイ
ウ、ナキキモ、ニジユウネン三ジユウネン
ツキヒガヌツニシタガイ(後畧)

(系音)

一石二鳥

養鶏家が実行して損のないはなし

ニユーカッスル病は、もう熄んでしまつたと安心してはいけません。サンパウロ附近は、だんだんとひろがって居り既に六十ヶ所以上発生をつづけている。克蘭ジヤへもほとつほつ蔓延して居る模様である。発生した地方、その附近の克蘭ジヤでは一せに予防注射をして居る。組合関係では予防注射に力を入れて居る。同時に鶏舎の消毒にも充分意を用いて居る。予防注射も最近では非常に進歩した。生毒の製造され、産卵にも余り影響がななく成績がよいとの事である。

尚、古田土白雲堂(コチヤの技術員)氏の話によると鶏舎内の消毒にリホルム五%液(原液一リットルに水ニ〇立を加ふ)にペルテリタン三〇グラムを加えた液で鶏舎を隈々噴霧すると、ニユーカッスル病の予防となるばかりでなく、ジフテリアが全然発生しない、タニも退治することができるといふ。郊外養鶏家に強制的にペルテリタンを出さないのを見て、リホルム消毒がジフテリア菌にも卓効のあるに

周囲と和解した者のみが

幸福の国に住む

〔谷口雅春著「美しき生活」より〕

生長の家

講演会

日時 来る十二月八日夜八時

会場 バストス産業会館

講師 城 信支 先生

イビウーナ青年道場主幹

生長の家のお話は決してムツカシイ理論ではございません。どなたがおききになりまして、すぐ心の營養となることはかりです。どうぞご近所おさそい合せ、おでかけ下さい。

生長の家バストス連合

誌友相愛會

おどろいたこのことである。ひとごとではない。自分の鶏舎もある。少くとも月一回の消毒は、せひ実行したいものがある。ニユーカッスル病の予防となるばかりが、ジフテリア、タニ、連たいぢするに、おどろかす。これは一石二鳥である。一石三鳥の利益ではないか。

(フナムシは最小の毒を用ひ家根ウラマでかかるといふこと、エサバコは、そのまゝかかるといふこと、なる可く鶏体にもキリかかるといふこと)

圧搾空氣のタンク破裂す

去る十一月十五日午後一時半頃バスト市内にセイテンノヘキレキといふ屋敷の子供たちが走つてゆく。これはホストパンテイランテの圧搾空氣のタンクホルの安全ベンが何かに故障があつて、内部の空氣が異常にふくれ上り、タンクホルをつきやぶつた音であつた。ひどい勢のもの、うしろ側のレンガをつき破り、カワラもふきとばしてしまつたが幸いに休日のこととて附近に人がいなかつたため、ケガ人も出さず、損害も比較的軽少です。道所の人の話によると、下腹にぐつとこたえる程の衝動があつたといふ。

万年筆を落した人は

ありませんか?

去る十一月十一日ごろのこと。ペルテシ人、いそいで、きてくださ

週報社

日盛り

出嫌いの彼が日盛り行くは何處 菊子

日盛りや子ら怖い程水を飲む

日盛りに黒煙はきて發車ベル たね子

日盛りは午睡とさめし氣樂農 奇集

今週の偶感

洗腦子

2

もう一ヶ月位前のことだと思ふが聯合青年団主催で行われた文化産業研究会で農田トクターの衛生講話があり、若い娘さん(女子青年)の間に大へん人気があったそうである。

その後農田先生に会ったとき、どんな話をなさったか聞いて見たら、カンタンな婦女子の衛生に就いて、又は育児法といつた程度の事を話したばかりさうなつて居られた。

本屋の話だと日本の婦人雑誌が相当賣れる相だが、それらの本を真剣に読み、理解できる二十代の娘さんは、ごく少いように思われる。各家庭でお母さんなどが氣をつけて読んでやり、又話してきかせたりすれば、けこころだとは思ふが、

過日農田先生がやった常識で知って居るであらうと思われ、常識で知って居る必要な話だと考えられ、読者の試みて来た文化産業研究会は、そういう意味で大きな役割を果して居ると思われる。

町には数々の裁縫学校があり、多くの娘さん達が裁縫、料理などの教を受けて居るのは非常に良い事だが、終をいへば月に一度位、各校合同で農田先生のや、たような講話をして見たら、くとも、車頃の娘さん達に取つては決してマイナスマにはならぬと考へる。

農田先生は、もう上堅してしまわれたので、今更農田先生には望めないが、又或る日系の医師が後任として来られるであらうから、せひそういう方面のことも考へてほしい。

家庭の中は、何といつても子弟教育の中心である主婦でなければならぬ。若し将来家庭の中心となる娘さんたちよ、自分々の将来の爲めに、ブラジル語をよし、日本語をよし、もつともつと勉強して来たべき度い。

第二回ホナンザラムの回答

姉は嫁入して三人の子持だ。妹の雪子もいよいよ話の纏った。どころで三シンのことだが太郎田でンセルを十回賦で呉れるそうだ。君一ッ申込んで置いてくれぬか。ハラパンの友より

結婚の話は「決つた」といふより「纏まった」といふ可きでしょう。
ツパン吉田氏(住所くらせ) 薄越とみ子氏入賞

珍らしい註文

桑の木の皮をはいで

乾かしたものの

養蚕家が五苓時 沢山給桑

なさるので山とつまれる桑の條の

皮をはいで下されば、けつこうです。

皮一キロ 金拾針 でしたきます

皆さん 試みに

一トンの位 づつ 作つて見て下さいませんか

御持参先! (南米銀行前)

戸田美容院

戸田源 作

アルゼン 土産はなし

ソフトボールは

なか なか さか

アルゼンに遠征したオスワルド野球チームの外郎員(非公式参加員)として約二週間フントワして来る十六日帰植した、太郎田の土産はなし、但し野球に關係ある範圍をけでも興味シンシンたるものがある

太郎田さんは審判長なんでしょう

ね、フロテクターがないんだ、仕方がないから捕手用のでやつたが、怒り肩と乳首の辺に二發やられ、こわくなつてしまった。チツプでもモロにくつたら

のびてしまふよ。フロテクターなしでは命がけだ。

アルゼンチンではフロテクター使わないんですか

ね、ふん、才だぞ、こ、追行つとらんのか、も知れんね

では、また草野球時代でなもんですか

また、これからだろうね、でもソフト

ボール、ちゆうのは中々盛んでね、大人

も女子も中学生もやつと、スポン

ホイル、そらゴムマリさ、ルールなん

かピッチングがスクイ投げをする丈で

外は皆おなしだ。(と立ってピッチャーの

25-1-1956

二十一 日本名 アメリカ アリタサウ

藜科 *Chenopodiaceae*

学名 *Chenopodium ambrosioides*

var. anthelminticum, A. Gray.

アカザ科 アメリカ原産だが今は帰化植物として日本中到处に自生するに至った。当バスタースにも自生している。

○長く伸びる種類と、そうでないものがあるが、適心力強く、旺盛な生育をするには驚く。収量は反当り生茎三〇〇。Kg乾燥歩とまり一〇。% 全草が成熟期になつてから採乾燥する様にする

○含有成分は 全草中に精油〇。二一〇。八%の精油へノホチン油を含むが果実には特に多く4%位の成分がある。此の精油の中には色々な成分を含むが省畧。有効成分はアスカリドールであり、へノホチン油中の四〇七。〇%がこのものである。日本からの輸入薬で、邦字新聞の広告でおなじみのアスキスは此のアスカリドールを主成分としたものである。

○アメリカより輸入していたへノホチン油は日本の局方であるが之れは薄荷の様に乾かした果実茎葉を水蒸気蒸溜して出た揮発油を精製したもので、十二指腸の特効薬のように言われているが、蛔虫の殺虫薬洋毛線虫等をも強力に駆除することへノホチン油、及三共のネマトール等も副作用のあらわれれることがあるから、このものさのめのある時間をあき、ヒマシ油をのむ外は副作用をさけると同時に駆除の効果をより一層たかめることもできる。

私達は民間薬としてこの成熟した果実をいって粉とし大人一回二片のむか又は一日量4片を一合の水で半分になる位煎出し空腹時にのむことにしている。へノホチン油の様にさき副作用がない。道は光等に生えて居るから、ためして見るとようお奨めします。

アメリカから輸入していたへノホチン油又は家禽家畜の駆虫剤として使われたことは御承知のことと思ひます。アメリカアリタサウの果の大部分熱した頃刈取リ乾して葉と共にこきとリ細かくし之を他の粉餌の中にまぜたり、練餌として之を飼虫等も出、次々と永に試みることに産卵能率を衰等にも目に見える影響のあることを申上げておきたいと存じます。へノホチン油 アスカリドールの製造は簡單なもので、世界的需要のあるもので

生花の宗匠 宮武勝甫先生全快

去る十月十七日友人同伴アピオンで上野した宮武氏は同廿五日咽喉の大手術を済行約二週間入院、その後二週間はホテルトーヨーで静養をつづけて居たが十一月十七日執刀医ジョセフ・ホッテリヨの許可で一月ぶりに帰宅された。聞く処によると、声が出ない、咽喉が痛いと思つていたのは実はインコウ瘻で、思いきつて上野したからよかつたものの、あと四五日おくれたり自然のどがつかまつて、おさうはというさわとい処であつた。手術の結果声帯も呼吸部も全部ガンの箇所として除去したの、全治しても痰声は、かなわぬらしく呼吸は特にインコウ部にあけた穴でするという数百人に一人の成功手術であつた相である。

御わび

去る十一月十一日附本紙才三四四号に樋野上治作氏会葬御礼広告が掲載してありますが、依頼者樋野上良雄氏の希望によるとウニオン五区全員各位には少からぬ御世話を受けて居るので特にその旨表現してほしかつた由です。その希望通りにしなかつたのは週報社の落度でした。ウニオン五区二組の方々と並に全区の方々に、その旨御伝え申上げ、樋野上氏の意のある処を御承録下さる様、願上いたします。御わび迄

週報社

樋野上良雄様

ウニオン五区各位様

す。私はサントニンよりアスキスの方が安くでさるから強味だと思ひます。誰かやられる時代がくると信じます。

文献 刈米達又 薬学雜誌四〇、七三六

九三三、四四、八六、七七二

蚊

宿題の算術解けず蚊を叩く 里女
フアラア蚊 移民播けは哀話あり 猪人
夜勤の娘もう来る時刻蚊やりた、和枝
蚊にわれをそくまると出る野天風呂 〇子

Agora que era dia claro, foi-nos fácil adivinhar o que se passára: a neve conservara, impressa em fundo, a historia da morte dos cães.

Saindo da cabana um atroz do outro, tinham ladeado os feixes de lenha e podíamos seguir distintamente os vestigios deles durante uns vinte metros; depois estes vestigios desapareciam. Viam-se então outros sinais: dum lado os que mostravam por onde os lobos, em poucos saltos, se tinham lançado sobre os cães; e do outro os que diziam por onde eles os tinham levado depois de os ter abocado. Sinaes dos cães já não existiam, com excepção dum rasto vermelho que ensanguentava aqui e acolá a neve. Portanto, já não tinhamos que levar as nossas pesquisas mais longe; os dois pobres cães tinham sido degolados e levados para alguma belsa espinhosa, para aí serem devorados com vagar.

Quizera que Vitalis me repreendesse, mas batesse. Nes ele não dizia nada, nem sequer olhava para mim; deixava-se estar com a cabeça inclinada sobre a lareira; pensava com certeza o que ia ser de nós nem os cães Os Prognosticos do dia seguinte haviam-se realizado, o sol brilhava num céu sem nuvens, o os seus raios palidos eram reflectidos pela neve amarelada; e floresta triste e livida na vespera estava agora deslumbrante dum brilho que ofuscava a vista.

De vez em quando, Vitalis passava a mão sobre a cobertura, para palpitar Joli-Coeur; mas este não se aquecia, e quando eu me debruçava para ele, sentia-o tremer. Em breve se tornou evidente que não poderíamos aquecer-lhe assim o sangue gelado nas veias.

- É preciso chegarmos a uma aldeia, disse Vitalis, levantando-se, ou Joli-Coeur vai morrer aqui, Varos.

Saino primeiro e eu segui-o. Foi necessario chamar Capi, que ficára á porta da cabana, com o focinho voltado para o sitio onde os seus camaradas haviam sido surpreendidos.

Dez minutos depois de termos chegado á estrada encontramos um carro cujo carroceiro nos disse que em monos de uma hora estaríamos numa aldeia. Tão tinhamos por costume ir ficar ás melhores estalagens, ás que pela sua apparencia abastada prometiam boa hospedagem e boa mesa; nos pelo contrario costumavamos sempre parar á entrada das aldeias ou arredores, escolhendo alguma casa pobre onde não repeliam nem nos despejariam a bolsa. Tás desta vez não foi assim; em lugar de parar a entrada da aldeia, Vitalis continuou até a uma estalagem diante da qual se belouçava uma linda teboleta dourada; pela porta da cozinha, aberta de par em par, via-se uma mesa carregada de carne, e umas poucas de cagariolas de cobre vermelho cantavam alegremente em cima dum grande forno; deitando para o teto nuvenzinhas de fumo, respirando-se da rua um cheiro magnifico de sopa fôrda que nos regalava os estomagos esfomeados.

Áo principio o estalajadeiro que era um sujeito de boa apparencia não se dignára olhar para nos, mas os ares importantes do meu amo illudiram-no e deu ordem a uma criada para nos conduzir.

- Deita-te, depressa, disse-me Vitalis enquanto a rapariga acendia o lume. Não tive remedio senão obedecer.

- Taze por teres calor, disse-me, quanto rais calor tiveres, melhor mandando-me que o tivesse bem apertado de engontro ao peito.

O pobre animalinho que costumava ser tão indocil quando o obrigavam a fazer alguma coisa que lhe desagradava, parecia resignado a tudo.

Era manifesto que o pobre Joli-Coeur estava doente para recusar o vinho com assucar de que gostava muito.

- Bebe o vinho, disse Vitalis, deixa-te estar na cama, vou buscar um medico. O nosso amo não esteve muito tempo por fora; voltou, daí a pouco, trazendo consigo um sujeito de lunetas douradas - o medico.

Sem responder levantei um pouco a roups e mostrando "Joli-Coeur" que pusera o bracinho á roda do meu pescoço:

- Ele é que está doente, disse eu.

O medico recuara dois passos, voltando-se para Vitalis.

- Um macaco, gritava ele. Como é isto? por causa dum macaco é que foi incomodar-me e com um tempo destes?!

O nosso amo era um homem habil e que não perdia facilmente a cabeça. Delicadamente, e com os seus ares de importancia, deteve o medico. Depois explicou-lhe a situação; como foram surpreendidos pela neve, e como, com medo dos lobos, "Joli-Coeur" fugira para cima dum carvalho onde o frio o gelara. (continua).-

死亡通知 並に
會葬御礼

父 九五郎 儀かねて病氣静養中の
処 病革より八十六歳の天寿を全うし
去る十一月十一日午前七時逝去いた
し 翌十二日午後二時出棺バストス
墓地に埋葬せられました。

此段生前御厚誼にあづかりました事々
へ御報らせ申上はます
尚葬儀に際しましては炎熱の折柄遠
路御厭いもなく御会葬を賜わり且つ
多大なる御香奠及花輪など御惠供下
され御芳志の段厚く御礼申上はます
一々参上御言葉致す可き処畧儀下ら
茲に紙上を以て御挨拶の辞申述べす
一九五六年十一月十三日 謹言

喪主 上村 大八郎
妻 綾子
母 忠義 (ハラナ)

親戚 倉知 正秀
上村 六郎
上村 鶴子

各位

金一封 御礼

右ハ故 野利様ノ十三回忌御法養ヲ当所
天御堂ミナサレ十一月十七日附テ以テ御
寄進下サイマシク 深ク御礼申上ハマス
十一月十九日 梵真寺布教所

樋口 ヒサヨ 様
御礼

金一封
石ハ貴母堂様一周忌供養ノ為ノ当所へ拜
受致シマシク 御礼申上ハマス
梵真寺布教所

古田 義松 様

すばらしい 荷景気

暑かりず寒からず天候に恵まれて、今年
の春高はすばらしい豊作で、その上、上高
とさている。またその上、上値で、養蚕
家は札たはで頼むをなぐられて見えて
いである。ある日アラ拓製糸の荷受場を
のぞいて見ると一口一千キロという大口
がやつと片ついたらと思つた次の荷も一千
キロ、その外大口は数知れず入荷して
る。キロいくつですかと恐る々々たがね
ると百キロ、そうすると一千キロですと
いくつ位になりおすか、頭の悪い奴だと
思われたいないりで、だまっていたが、こ
りや大変なことだ、バストスは今にサツ
の海になる、カスーロ君バンハイ。

新旧移住者座談会

来る十一月廿五日(日)正午から(正確)
会場 コチヤ倉庫の二階
で開催します
多数 中参加下さい
週報社

中々頭がよろしい

本年の中学校卒業生は八十級名とか、
その外師範高商生など別々に卒業式をや
つては費印が高むから合同でやる相謀が
できたとい、費用捻出のため養鶏家に養
鶏を身附して下さいと頼んだ処、よろし
いと懇ろに入コント以上のものが集り、あ
と一息で所定の十二コントになるとの事、
中々ソノマがヨロシイ

農事講演會

日時 来る十二月二日(日)
正午十二時より
場所 バストス産業會館

バストスの経済、農事、に関する話
主催 連日及 連青
一般 男女青年、各社中堅層の方々
又農事に関心のある方の御聴講を
おすすめ致します

後援 週報社